

「祝! 同窓生が准教授就任」

この度、2期生の徳嶺譲芳氏が杏林大学医学部麻酔科准教授に、母校の眼科学准教授に酒井寛氏（7期生）、耳鼻咽喉・頭頸部外科学准教授に真栄田裕行氏（7期生）、腎泌尿器外科学准教授に宮里実氏（7期生）、血液浄化療法部准教授に古波蔵健太郎氏（7期生）が就任されました。

我々同窓会会員にとっても大変喜ばしいニュースですので、今後の抱負について寄稿していただきました。

准教授就任のご挨拶

～安全な中心静脈穿刺の教育システムの構築をめざして!～

杏林大学医学部 麻酔科学教室 准教授 徳 嶺 譲 芳（2期生）



本年2月から、東京の三鷹にある杏林大学の麻酔科学教室に准教授として入職した2期生の徳嶺譲芳（とくみね じょうほう）です。本学には1期生として入学し2期生で卒業した“留組（とめぐみ）1期生?!”です。2007

年まで琉球大学附属病院麻酔科に在籍し、その後北部地区医師会病院、川鉄千葉病院（現：千葉メディカルセンター）で勤務しました。

琉大附属病院勤務中に不得意な集中治療を担当する羽目になり、ひょんなことから本邦ではあまり知られていなかった超音波ガイド下中心静脈穿刺を全国に推進するというボランティア活動を開始することになりました。現在まで私的に行ったハンズオン・セミナーは、国公立大学から中小の総合病院を含め計345回を越え、日本医療機能評価機構のCVC（Central venous catheterization）講習会の委員、日本医学シミュレーション学会のCVC委員、医療安全全国共同行動支援部会Ⅲb（中心静脈穿刺）の委員長として、活動を推進しています。また本年は、日本麻酔科学会のCVCガイドラインの改訂委員として、本邦の基準となるべくガイドライン作成に邁進中です。

杏林大学に入職したきっかけは、杏林大学麻酔科学教室の萬教授（日本麻酔科学会常任理事）か

ら、当院で「安全な中心静脈穿刺の教育システムを構築してもらいたい」という強い要請があったからです。最初は、非常勤講師としてなら、ということで杏林大学の安全なCVCの推進のためのプロジェクト「杏林プロジェクト」に参加していたのですが、遅々として進まない改革に業を煮やし、とうとう大学に入職してしまいました。

そのようなわけで、「大学病院レベルで中心静脈穿刺の合併症を1%以下にする」というミッション・インポシブルを遂行中です！ちょっとつらいのは、給料がめっきり下がったことと、休みが全くなかったことです。今年度も、あと12回セミナーの予定が入っているため、毎週か隔週で全国を飛び回っています。それに加えて、昨年からは、British Journal of AnaesthesiaのEditorのDr. Thompsonから、これ査読してと、各月で査読論文が送られてくることです。恭しく快諾していたら、少ない休みもほぼ査読で潰れてしまっています。

まあ、こんな忙しさもせいぜいあと数年だろうし…、体力の続くまで頑張ろうかなと思う今日この頃です。

おっと、最後になりましたが、今後ともお引き立てのほど宜しくお願い致します!!!